

平成 2 4 年度

# 施設評価調書

施設の名称……青少年海の家

所管担当課……教育委員会生涯学習課

平成 2 4 年 7 月

平成 24 年度
----------

施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家
----------	------------

番号	22
----	----

## 設置目的の達成度

### 1 計画(Plan)と実績(Do)

設置目的	青少年の健全育成を図るため					
運営事業名	H22 年値	H23 年目標値	H23 年実績値	対前年比	目標達成率	評価
施設総利用者数	3,331 人	3,400 人	1,931 人	57.97%	56.79%	D
市内利用者数	582 人	760 人	258 人	44.32%	33.94%	E
	設置目的に対する総合評価					<b>E</b>
目的達成度の評価基準	1. 青少年の施設利用の増加が運営目的となるため、年間利用者数を評価基準とした。 2. 市内の学校や団体の利用者数を評価基準とした。 目標値＝過去 5 年間の最大値（H18：760 人） 評価基準：A=100%以上、B=80～99%、C=60～79%、D=40～59%、E=40%以下					

### 2 現状分析(Check)

運営事業の意義と現状	地元区誘致の教育旅行の研修場所としての利用が多くを占める。また、海浜に隣接し、利用料も安価なため主に首都圏の青少年団体の利用も多く、定期的な使用団体もある。反面、市内の小中学校の利用は限定的である。 平成 23 年度においては、市外・市内利用者とも減少が目立った。
上記の原因	自然の豊かな地区に立地する好条件が都市部の子どもたちや指導者にとって魅力的なため、一定の利用者数を確保しているが、設備の老朽化や宿泊施設として使いにくい面もあり、市内学校の利用率が低下しているとみられる。 特に平成 23 年度においては東日本大震災の影響により、利用者数が減少したとみられる。

### 3 次年度以降への改善点(Action)

具体的な改善方策	市内小中学校の利用の促進に向け、各校へ周知するとともに、青少年健全育成団体と連携を図る。		
H23 年度運営事業と目標値	運営事業名	H24 年度目標値	備考
	施設総利用者数の増加	3,400 人	過去 5 年間の最大値（H20：3,417 人）
	市内利用者数の増加	760 人	過去 5 年間の最大値（H19：760 人）

※参考 前年度までの運営事業の実績値と評価 \*上欄=目標値、下欄=実績値

運営事業名	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
総合評価				
施設総利用者数	2,400 人	2,400 人	2,500 人	3,400 人
	2,337 人	2,502 人	3,417 人	2,846 人
市内利用者数	—	760 人	760 人	760 人
	760 人	234 人	656 人	506 人

平成 24 年度	施設名 (愛称名)	下田市立青少年海の家	番号	22
----------	-----------	------------	----	----

## 効 率 性

### 1 計画(Plan)と実績(Do)

効率性指標		H22 年度値	H23 年目標値	H23 年実績値	対前年比	目標達成率
①利用単位 当たり経費	A 施設総利用 者数等	3,331 人	3,400 人	1,931 人	57.97%	56.67%
	B 年間経費 (除く収入)	1,042,694 円	855,211 円	687,829 円	65.96%	80.42%
	B/A	313.03	251.54	356.21	113.80%	125.18%
②光熱水費		131,796 円	112,026 円	89,490	67.90%	125.18%
③消耗品費		705 円	17,850 円	17,235	2444.68%	103.56%
効率性指標の考え方等		施設総利用者数：宿泊者、会議室利用者（教育旅行、各種研修。地元区利用、撮影等の目的外使用）の実数を集計した。 目標値 A：平成 18-21 年度の最大利用者数（H20：3,417 人） 目標値 B：年間経費にかかる予算額（支出額＋職員人件費の合算）				

### 2 現状分析(Check)

効 率 性 の 現 状	施設利用者数によって光熱水費の額に増減がある。 H18-21 までの間、管理を地元区が行った。H22 より市が管理人を雇用（1 人／120,000 円／年）。
----------------	--

### 3 次年度以降への改善点(Action)

具 体 的 な 改 善 方 策	施設利用者へ節水・節電の呼びかけを行い、効率性の向上を目指す。		
H24 年度効率性 の 目 標 値	①利用単位当たり経費 B/A	189.53	年間経費（除収入）／利用者数目標値（3,400 人）
	②光熱水費	85,0155 円	前年度実績額（89,490）より 5%削減
	③消耗品費	16,373 円	前年度実績額（17,235）より 5%削減

### ※参考 前年度までの効率性指標

効率性指標		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
① 利用単位当たり 経費	目標値	2,400 人	2,400 人	2,500 人	3,400 人
	A 実績値	2,337 人	2,502 人	3,417 人	2,846 人
	B 実績値	727,918 円	737,944 円	750,784 円	736,774 円
	B/A	311.47	294.94	219.72	258.88
	対前年比 (A)	96%	107%	136%	83%
	目標達成率	97%	104%	136%	83%
②光熱水費 * 含排水処理施設使 用料	目標値 (予算)	161,000 円	169,000 円	189,000 円	189,000 円
	実績値	137,361 円	122,151 円	120,512 円	124,246 円
	対前年比	98%	88%	98%	103%
	目標達成率	117%	138%	156%	152%
③消耗品費	目標値 (予算)	21,000 円	21,000 円	21,000 円	21,000 円
	実績値	21,000 円	19,628 円	16,352 円	21,000 円
	対前年比	155%	93%	83%	128%
	目標達成率	100%	106%	128%	100%

平成 24 年度
----------

施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家
----------	------------

番号	22
----	----

#### 4 その他の指標

受益者負担 の適正性	区 分	説 明	単 位	H21 年度	H22 年度	H23 年度
	①使用料原価	1 m <sup>2</sup> 1 時間当たりの原価	円	0.025 円	0.035 円	0.024
	②稼動割原価率	年間経費を年間収入で賄えない比率	%	703.4%	603.8%	539.9%
	③ 1 m <sup>2</sup> 1 時間 適正使用料	① ②	円	0.176 円	0.214 円	0.141 円
	④ 現行 1 m <sup>2</sup> 1 時間使用料 の平均	—	—			
	⑤適正化計画	—				

##### 【算出式】

①使用料原価（1 m<sup>2</sup> 1 時間当たりの原価）：（人件費＋物件費）÷総面積÷年間使用可能時間

②稼動割原価率（年間経費を年間収入で賄えない比率）：年間経費÷年間使用料収入

③ 1 m<sup>2</sup> 1 時間適正使用料：1 m<sup>2</sup> 1 時間当たりの原価×年間経費を年間収入で賄えない比率

運営に掛か る税負担 (市民負担)	年度		H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度(予算)
	人口（4 月 1 日：人）		25,549	25,224	24,881	24,515
	人口 1 人あ たり(円/人)	運営経費	16.6	32.3	19.9	25.7
年間総経費		25.3	35.4	23.4	26.3	

\*人口 1 人あたりの運営経費：運営経費（支出合計）／人口

\*人口 1 人あたりの年間総経費：下田市負担年間総経費（支出＋職員人件費－収入）／人口

平成 24 年度

施設名 (愛称名) 下田市立青少年海の家

番号 22

**利用者満足度調査**

実施の有無	○有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	調査の方法		H 年度調査数	件
○貸館利用者向け					
1 調査結果					
設問	回答種類	H 年度回答数	H 年度回答数	H 年度回答数	
	1 2 3				
	1 2 3				
	1 2				
	1 2				
	1 2				
※今年度寄せられたクレーム等 ・トイレの改修を望む声が寄せられている。					
2 調査結果から読み取れること					
3 次年度以降への改善点					

**施設修繕計画及び備品購入計画**

破損年度	全ての破損した箇所・備品名	経費見積	修繕・買換等 予定年度	備考 (修繕済年度等)
—	耐震診断・補強計画・実施設計策定	7,561,000	平成 年度	
—	耐震補強 (大規模改修) 工事・監理	66,946,000	平成 年度	
経年	旧宿直室の床修繕		未定	
経年	トイレ屋根・通路屋根の改修		未定	
経年	窓枠・扉修繕		未定	
経年	調理室壁面修繕		未定	
経年	建物側面及び背面の塗装・修繕		未定	
経年	外周コンクリートの修復		未定	
経年	建物内壁 (漆喰) の修繕		未定	
※今後想定される維持管理事項 耐震診断の実施と、耐震計画の立案、耐震化				

平成 24 年度
----------

施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家
----------	------------

番号	22
----	----

### 管理運営上のその他評価項目

<p>当該施設の必要性 廃止、休止等の可能性 施設の設置目的変更の可能性</p>	<p>市内・市外の青少年育成関係団体による利用がある。 特に教育旅行の研修の場として、地元区から施設存続の強い要望がある。</p> <p>施設の標高はおよそ 4 m で、海岸から約 200 m の地点に位置することから、地震津浪が発生した場合には甚大な被害が想定され、利用者の安全が確保できない状況にある。また、耐震化も未実施であるため、今後の施設運用については検討を要する。</p> <p>* 平成 24 年 4 月からは、災害への迅速な対応が困難であるとの理由から、夜間の宿泊利用を禁止している。</p> <p>昭和 5 年（1930）に建設された現存する下田市内最古の学校建築建物（旧登自尋常高等小学校）で、大正・昭和初期の木造校舎の原型を留めている好例として、地域の教育史・建築史上、その価値を重視する声がある。静岡県近代化遺産候補ともなっており、文化財建造物としての活用も考えられる。</p>															
<p>民間による管理運営の可能性 今後の管理運営主体の見込み 行政関与の妥当性</p>	<p>管理運営の主体を検討する前に、地震や津浪対策も含め、施設のあり方について根本的な検討を行う必要がある。</p>															
<p>施設の管理運営と経費の妥当性</p>	<p>現状、必要最低限の経費で運営されている。今後、公の施設として維持するならば、耐震化や避難路の整備等、大規模な改修費用が必要となる。</p>															
<p>施設の性質や実費経費からみた 受益者負担の妥当性</p>	<p>近隣の事例や施設の規模・状況からみて妥当な金額と考えられる。</p>															
<p>その他の管理運営上の課題</p>	<p>建築本体は建設時の丁寧な施工により大きな破損や劣化は認められないが、全体として経年劣化が進んでいる。特に付属屋であるトイレ棟は老朽化が目立ち、設備の近代化を含め、改修を必要としている。</p>															
<p>【参考】 市内や賀茂郡内の類似施設の管理運営状況等</p>	<p>○西伊豆町営やまびこ荘（M40 建築、旧大沢里尋常小学校） 【宿泊料金（H22 耐震工事、リニューアル実施）】</p> <table border="1" data-bbox="576 1272 1230 1462"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>素泊まり</th> <th>一泊二食付</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2 歳以上小学生未満</td> <td>1,800 円</td> <td>3,900 円</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>2,300 円</td> <td>4,400 円</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>2,600 円</td> <td>4,700 円</td> </tr> <tr> <td>高校生以上</td> <td>3,200 円</td> <td>5,300 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;その他参考&gt;</p> <p>○熱海市立少年自然の家 中学生以下 市内 210 円 市外 420 円 その他 市内 420 円 市外 630 円</p> <p>○沼津市立少年自然の家 中学生以下 220 円 その他 520 円</p> <p>○三島市立少年自然の家 中学生以下 市内 200 円 市外 410 円 その他 市内 300 円 市外 610 円</p>	対象	素泊まり	一泊二食付	2 歳以上小学生未満	1,800 円	3,900 円	小学生	2,300 円	4,400 円	中学生	2,600 円	4,700 円	高校生以上	3,200 円	5,300 円
対象	素泊まり	一泊二食付														
2 歳以上小学生未満	1,800 円	3,900 円														
小学生	2,300 円	4,400 円														
中学生	2,600 円	4,700 円														
高校生以上	3,200 円	5,300 円														

### 平成 24 年度 実施運営事業内容

運営事業名	事業内容	次年度に向けての改善事項
青少年海の家管理運営事業	青少年海を家の管理運営	施設のあり方について検討を要する

平成 24 年度

施設名 (愛称名) 下田市立青少年海の家

番号 22

**施設の概要**

1 施設名 (愛称名)	下田市立青少年海の家		2 担当課 担当係	生涯学習課 社会教育係			
3 所在地	下田市田牛 217 番地		4 設置年月	昭和 41 年 4 月 昭和 50 年 4 月 1 日開設			
5 総合計画の位置付け	Ⅱ人が輝くまちづくり		2 未来の人づくり		青少年健全育成		
	基本目標		家庭、地域、学校と関連機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。				
	基本目標を実現するための施策		項目	内容			
6 設置目的	青少年の健全な育成を図る						
7 設置根拠	下田市立青少年の家設置及び管理に関する条例						
8 施設の概要	施設の概要	敷地面積 3,361 m <sup>2</sup> 床面積 601 m <sup>2</sup> 木造平家建、切妻造、スルト葺き、下見板張ペンキ塗 【施設の沿革】 昭和 5 年 朝日村立登自尋常高等小学校として建築 昭和 41 年 吉佐美小学校 (現朝日小学校) との統合により廃校 昭和 41~50 年 田牛区公民館として利用 昭和 50 年~ 下田市青少年海の家として運用					
		収容能力 48 ベッド 会議室・談話室・調理室・浴室・広場 (旧校庭)					
	実施事業の概要	市内の小・中・高校の児童生徒及び市内青少年団体・社会教育団体等の訓練・研修活動のために設置されている。					
料金体系	料金	1 宿泊せず施設を使用する場合					
		2 宿泊する場合 *H24.4 から宿泊使用は不可とした。					
	主な料金	1 宿泊せず施設を使用する場合					
		種別	単位	昼	夜	昼夜	備考
		会議室	1 回	300 円	500 円	800 円	
		談話室	〃	200 円	300 円	500 円	
		調理室	1 人	50 円			
	浴室	〃	50 円				
	料金	2 宿泊する場合 *H24.4 から宿泊使用は不可					
		種別	単位	金額		備考	
宿泊料		1 人 1 泊	一般	500 円		入浴並びに毛布 1 枚を含む。 光熱水費 100 円別途徴収	
			中学生	200 円			
			小学生	100 円			
毛布使用料	1 枚 1 夜	50 円					
減免内容	(使用料の減免) <b>第 4 条</b> 下田市立青少年の家設置及び管理に関する条例第 11 条に定める公益上必要と認める使用とは次の場合とする。 (1) 教育委員会が主催し、又は委託する事業に使用する場合 (2) 下田市内の小学校、中学校、又は学区内の高等学校が単独で又は連合して行う教育訓練又は研修のために使用する場合 (3) 教育委員会が認めた社会教育団体が、訓練、研修のために使用する場合 (4) その他特に教育長が適当と認めた場合						
	利用料金制度	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無					
施設運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接運営						
	<input type="checkbox"/> 指定管理者制度 →	指定管理者					

平成 24 年度

施設名 (愛称名) 下田市立青少年海の家

番号 22

		<input type="checkbox"/> 一部委託 →	委託内容				
	直接従事職員	下田市職員数 1名					
9 市内の類似施設	下田市所有	あずさ山の家 (下田市農村体験宿泊施設)					
	民間所有	なし					
10 取得費等の情報 (単位:円)	取得費及び財源内訳		平成 23 年度末残高		(備考) 減価償却の方法 ・ 定額法 ・ 残存価 円 ・ 新設翌年度から償却 ・ 耐用年数 年		
	土地取得費		土地残高				
	建物取得費		建物減価償却後残高	1 円			
	財源内訳						
	国・県支出金						
	市債		市債残高	0 円			
	一般財源						
	寄附金等						
	物品(*万円以上)		物品減価償却後残高				
11 年間経費等推移 (単位:円)	区 分		H21 年度決算	H22 年度決算	H23 年度決算	H24 年度予算	
	収入	使用料	91,700	147,600	103,700	180,000	
		占用料	—	3,800	3,800	3,000	
	収入合計		91,700	151,400	107,500	183,000	
	支出	7 節 賃金	0	120,000	120,000	120,000	
		11 節 需用費	255,171	232,209	202,705	264,000	
		消耗品費	21,000	705	17,235	21,000	
		光熱水費	102,469	109,043	89,490	123,000	
		集落排水	21,777	22,753	16,075	40,000	
		修繕料	109,925	99,708	79,905	80,000	
		12 節 役員費	144,191	147,239	76,344	150,000	
		13 節 委託料	117,600	94,500	94,500	95,000	
		18 節 備品購入	0	220,500	0	0	
	支出合計		516,962	814,448	493,549	629,000	
	減価償却費		0	0	0	0	
	市債利子		0	0	0	0	
	職員人件費		219,812	228,246	194,280	198,407	
年間経費 (支出+職員人件費)		736,774	1,042,694	687,829	827,407		
下田市負担年間総経費 (支出+職員人件費-収入)		645,074	895,094	580,329	644,407		
備考	<input type="checkbox"/> 人件費は、実額を算出記載 (当該年度の人件費総額を按分し、事務量を勘案の上、1/30 人工で算出した) <input type="checkbox"/> 総経費=支出合計-収入合計+職員人件費 <input type="checkbox"/> H18~21 は地元区長に管理人を依頼。H22 より市が管理人を雇用。						
12 施設利用状況等の推移	利用状況	利用年度	H21 年度決算	H22 年度決算	H23 年度決算	H24 年度予算	
		利用者数	市内	506 人	582 人	258 人	— 人
			市外	2,340 人	2,749 人	1,673 人	— 人
			合計	2,846 人	3,331 人	1,931 人	3,400 人
	参考: 利用単位 当たり市負担額	226.66 円/人	267.21 円/人	300.54 円/人	189.54 円/人	算出方法: 11 欄の「下田市負担年間総経費」÷利用者数	
休館日	なし						
使用時間	午後 10 時消灯厳守						